

環境未来都市「北九州市」に本社移転 2020年には売上高1000億円へ

新ケミカル商事

“特色ある会社、を追求 「ASEAN」展開本格化

建材、化学品、樹脂、肥料などの専門商社、新ケミカル商事は4月、東京から北九州市に本社を移転した。

上田哲則会長は移転の理由を「当社は2020年を最終年度とした中期経営計画『NCT-26』で売上高1000億円を目指すと同時に“特色ある会社、を追求している。そこで、当社が最も重要だと考えるキーワードを『環境』と捉えており、市が先駆けて取り組んでいる環境未来都市の方向性が当社と完全に一致していたからだ」と語る。

さらに「本格的にASEANへの海外展開を加速させるうえで、地理的な優位性を十分に感じる」と、現存する香港、上海、マレーシアの3カ所の拠点以外にも、台湾やシンガポールなどへ拠点網を広げていきたい考えだ。

そもそも同社と北九州とは縁が深い。前身の一つである横尾化学産業が、1965年頃まで北九州に本社があり、旧八幡製鉄所(現新日鉄住金)の取引企業だった。その後、2004年に横尾化学産業と新日化興産(新日鉄化学子会社)が合併し同社が誕生したという歴史がある。

本社移転から半年一。市とは1



上田哲則 会長

月時点で環境連携協定を締結していたこともあり、10年に開設した「アジア低炭素化センター」とは現在、互いのノウハウをテーブルに上げて、海外への環境技術の輸出に向けて着々と準備を進めている段階だ。

ただ「これは当社と市だけで完結してしまう話では意味がない。より、北九州に根ざしている地元企業とスクラムを組み、環境未来都市『北九州』のポテンシャルを一緒に海外に提案していくことが重要だ」と上田会長は語り、この取り組みこそが同社の目指す“特色ある会社、に直結するというわけだ。

売上高については「今年度は900億円を見込んでいる」と、1000億円の大台は既に視界に捉えている。会社が発足した15年前の売上高が246億円なので、短期間で3.5倍以上も増収し“飛ぶ鳥を落とす勢い、とはまさにこのことだろう。

本社記念コンサート開催 収益は豪雨災害義援金に

一方で、同社は社会貢献活動や文化支援活動にも積極的に取り組んでいる。09年からは、同市門司区の児童養護施設への寄付活動に加え、同施設のイベントなどの

際にも運営サポートを行っている。また、北九州音楽協会にも寄付活動を続けており、節目節目で同社の冠コンサートを開催している。

ことし10月14日には、「新ケミカル商事 北九州本社設立記念コンサート～秋の盛りにパッパはいかがが～」を北九州芸術劇場大ホールで開催する予定だ。入場料金はワンコインの500円(全席自由)で、この収益は西日本豪雨災害義援金として全額寄付される。

「会社の根幹は人材だ。単に利益を追求する会社はすぐに衰退してくだろ。誰かのため、という奉仕の精神があってこそ、主体的な人材が育つ。会社はそのような社内風土を醸成し、彼らが活躍できる場所をたくさんつくってあげることが重要だ」と上田会長。北九州に地域活力を呼び込む台風の目として、今後の同社の事業展開に注目が集まる。



4月1日に新設した北九州本社のエントランス